

第 3 2 回「シニアの悩み 1 1 0 番」 集計結果報告書

主催：全国シニアライフアドバイザー協会
後援：(財) シニアルネサンス財団

1. 開設要綱

- ・日時 平成 24 年 3 月 24 日 (土)・25 日 (日) 10:00～17:00
- ・場所 札幌・東京・名古屋・大阪・福山・広島・福岡 計 7 都市 (仙台不参加)
- ・相談員 シニアライフアドバイザー

2. 相談者数・相談者の内訳

相談者数 311 人…………… (資料 - 1、2、5)

男性 96 人 (30.9%) 女性 215 人 (69.1%) ～ますます増加する男性からの相談～
電話相談開設から 10 数年経ちます。最近までは男性からの相談は少なかったのですが、
2～3 年前より件数が増えてきました。昨年 9 月では 27.2%、今回は 31% と更に増え、
3 都市では 35% 以上となりました。
退職後、男性の立場が家族・親族間で弱くなり、疎外感を感じている人が多くなっていると考察しております。

年齢別区分による順位

(資料 - 4、6)

順位	年令	人数
1 位	70～74	78 (25.1%)
2 位	65～69	58 (18.6%)
3 位	75～79	52 (16.7%)
4 位	80 以上	48 (15.4%)
5 位	60～64	45 (14.5%)

*平成 22 年に超高齢社会へ突入して以来、65 歳以上 (前期高齢者) 方からの相談件数は全体の 7 割になっています。

昨年 9 月の電話相談では、5 位だった 80 歳以上の方からの相談件数が第 4 位となり 10% から 15% に上がりました。超高齢社会を象徴する結果と言えるでしょう。本来ならば長寿を喜ぶべきところ、言いようのない不安を抱えて暮らしている状況が見受けられました。

*女性の相談の 1 位は今回も「家族・親族」問題でした。自身の心配よりも家族のことの心配や悩みを相談する事例がいつものように多かったです。

*男性の場合、1 位は「遺言・相続」が飛びぬけて多く、男性相談件数の 30% を占めました。加えて最近の傾向で結婚しない、子供を産まない若者が多いために家の存続についての悩みも目立ちました。

3. 相談内容 (上位 5 項目・311 件中)

(資料 - 1、2、3、4、5)

1 位	遺言・相続	84 件
2 位	家族・親族	64 件
3 位	健康・医療	29 件
4 位	経済	25 件
5 位	生き方	24 件

1 位 遺言・相続

～～家族関係の崩壊が着実に進んでいる～～

一昨年まで「遺言・相続」は 5 位でした。自らの意志で相続問題を処理したいと考えながらも、男性の場合の多くは家の中であって孤立しているケースが多く、肝心の相談が出来ずに悶々としている様子が窺えました。

2位 **家族・親族**

～～親に頼りすぎる子供達～～

数年前から子供が親の経済的援助を頼りにする傾向が強くなっています。その反面、終末期のケア（介護等）をしてくれるかについては疑問や不安を抱えています。親子間の風通しの悪さを感じます。

3位 **健康・医療**

4位 **経済**

5位 **住居**

「健康・医療」で今回目立ちましたのは**施設や病院での介護対応の悪さ**でした。

行政や民生委員に申し出ても解決が得られず、歯がゆい思いを訴えていました。

4月から「介護保険制度」のサービスが改正されました。利用者に制度内容をわかり易く理解できる説明が必要だと痛感しました。

「経済」では年金のみでの暮らしで生活苦を訴える電話が今年も全国から多く寄せられました。

「住居」は将来入院や施設への入居時に**保証人がいない**ので心配だという相談が開設当時から継続的にあります。最重要課題です。行政が保証するなどの早急な制度改革が急がれます。

「暮らしの形態別」相談内容

(資料 - 2、7、8)

「夫婦世帯」「一人世帯」「家族同居世帯」の3形態の暮らし方で相談内容の相違を検証しました。

相談件数では

「一人世帯」 123件 (39.5%)

「夫婦世帯」 100件 (32.2%)

「家族同居世帯」 88件 (28.3%)

3形態とも、ほぼ同じ割合で相談が寄せられました。

高齢者にとって、終末期、特に病を得たあとの介護の心配は切実です。

どの「暮らしの形態」からも終末期に関する多くの悩みや不安を訴える相談がありました。

介護保険制度など社会制度を知らない**情報難民が多数**いることから、必要な情報を気軽に得られるシステム構築が不可欠です。

* 「一人世帯」の悩みは、「遺言・相続」が他の相談事を大きく引き離して一番でした。

「遺言・相続」に関する相談は、昨年辺りから急に増えましたが、特に80歳以上の方の相談の40%が「相続」に関する相談でした。

一人世帯では、話し相手がないことも深刻です。この電話相談でも、電話口で一方向的に話し込んでくる方が多くおられました。内閣府が60歳以上の人を対象に実施した調査によりますと、一人暮らしの人は日頃の会話が少ない人が多く、一人暮らしの男性で41.9%、一人暮らしの女性でも27.8%が、「2～3日に1回以下」と答えています。(平成23年度版高齢社会白書)

気軽に言葉を交わす機会があるだけでも、気持ちがずいぶん救われるのではないのでしょうか。

なお、一人世帯の男性の場合は元気なうちは**再就職**を望んでおり、出来るだけ社会と関わっていたいという前向きな方も少なくありませんでした。

一方、一人暮らし世帯の女性の場合は年金だけでは暮らせない苦しい生活や葬儀や家財道具の処分についてなど、**経済や死後の始末**に関する相談がかなりあり、どれも深刻でした。

* 「夫婦世帯」では年をとってからの夫婦関係が上手くいっていないケースが多く、特に女性から離婚、別居したいが経済的なことも考えるとそこまで踏み込めないで我慢しているという悲痛な声が聞こえてきました。

* 「家族同居世帯」では同居している家族の病気の心配、息子の暴力で悩んでいる、家族と居ても寂しいなど様々でした。

[添付資料]

資料－ 1 : 相談内容順位別・協会別集計表

相談内容の多い順に件数を列記。男女別、協会別、誰についての相談かを記載。

資料－ 2 : 相談内容順位表 (過去 5 回実績対比)

相談内容の多い順に件数を列記。男女別、暮らしの形態別、誰についての相談かに加えて、過去 5 回の相談内容の順位を表記。

資料－ 3 : 相談内容年度別順位推移表グラフ

過去 5 回の相談内容の順位の推移の動きをグラフとして表示。

資料－ 4 : 相談内容順位別・年齢別集計表

相談内容の多い順に件数を列記。男女別、年齢別、誰についての相談かを記載。

資料－ 5 : 相談内容別・男女別件数グラフ

相談内容の項目別の男女の件数と男女の比率をグラフで表示。

資料－ 6 : 年齢別相談件数グラフ

年齢別に相談件数をグラフで表示。

資料－ 7 : 相談内容順位別 (暮らしの形態別) グラフ

相談内容の多い順に件数を列記。各項目を暮らしの形態別に件数をグラフで表示。

資料－ 8 : 協会別 暮らしの形態別件数・暮らしの形態別グラフ

協会別に暮らしの形態別の件数をと暮らしの形態別の比率をグラフで表示。

【今回の社会提言】

高齢者が楽しく交流できる場や機会の提供を ～～退職後、引きこもり（孤立化）をなくす対策として～～

平均寿命は平成 21 年現在、男性 79.59 年、女性は 86.44 年です。退職後の自由時間が 10 万時間以上もありますが、多くの方がその珠玉の時間に対する過ごし方を考えていないことに戸惑いと疑問を感じています。

現役時代は地域社会と接触する機会を持つのが難しいことは理解できます。しかし、退職後どのような生き方をするかを模索した時、地域社会を無視することはできません。

地域とつながりを感じていない人は「生き甲斐」の意欲が次第に低下し、引きこもり、孤立していきます。

「楽しくない、生きていてもつまらない、死にたい」という深刻な訴えが今回もありました。

他方では、何とか孤独、孤立から脱出したいと考えている人もあり「交流」を得られる場所の提供をという要望が寄せられ、なかには具体的に「同居人」を望む相談もありました。

「出会いの場所」や「外出する機会」を提供するなど、気軽に交流ができるような機会を地域で増やすことが必要ではないでしょうか。

(追記)

孤立化の要因を探る

現在の孤立したシニアが多数生まれてきた背景には、日本の伝統的な大家族制度の崩壊があるように思います。

戦後まもなく、それまで「家」中心で営まれ二世帯、三世帯で構成されていた家族の形態が「個」を重んじる民主教育が進み、家族に対する考え方が変わっていきました。

高度成長の後押しもあって子供が経済的に自立し、次第に核家族化が進みました。お互いに自立することは大切ですが、つながる努力をしていないと**家族間の絆**が薄れてしまうこととなり、結果「個」が「孤」になっていったのではないかと推察しています。

【参考】

＊ 財団法人シニアルネサンス財団

シニアルネサンス財団のホームページ <http://www.sla.or.jp/> をご覧下さい。

＊ シニアライフアドバイザー(SLA)とは

財団法人シニアルネサンス財団(1992年設立、内閣府主管)が中高年齢者総合生活相談員の養成事業におけるシニアライフアドバイザー養成講座を終了し、その資格審査に合格した者です。シニアライフアドバイザー(SLA)は人生90年時代、定年退職後・子育て終了後に迎えるシニアライフを健康で経済的困難もなく、かつ不安やトラブルもなく、生きがいをもって幸せに生きられるようにアドバイスしたり、シニアと共に問題解決を図ることをモットーとしてボランティア活動を行っています。

現在シニアライフアドバイザー(SLA)は全国に2600名(2010年10月現在)おります。

＊ 全国シニアライフアドバイザー協会とは

全国8協会の本部的機能を持つ事務局です。

事務局を(財)シニアルネサンス財団事務所に置き、現在、北海道(札幌)・東北(仙台)・関東(東京)・中部(名古屋)・関西(大阪)・東中国(福山)・中国(広島)・九州(福岡)の8協会が連携しながら活動しています。

平素は其々の協会では社会に向けた活動をしています。活動の一環として春3月、秋9月の年2回、全国一斉特設電話相談「シニアの悩み110番」を開設し、18年を数えました。

お問い合わせ

全国シニアライフアドバイザー協会 事務局 石寺 弘子

電話：090-5999-7662(石寺) E-mail: slanet428zenkoku@gmail.com

東京都千代田区九段南3-5-10 九段菊江ビル3F (財)シニアルネサンス財団内

NPO法人中国シニアライフアドバイザー協会 電話相談担当：藤咲 俊昭

電話：080-5623-5558(藤咲) E-mail: sla.hiroshima@gmail.com

広島市中区八丁堀1-3-15 八丁堀ビル6F FAX：082-222-2246

全国一斉特設電話相談「シニアの悩み110番」

相談内容順位別・協会別集計表

(資料-1)

実施日：平成24年3月24日・25日

区分	件数	性別		協会名							誰についての相談か		
		男	女	北海道	関東	中部	関西	東中国	中国	九州	本人	家族	友人等
遺言・相続	84	32	52	21	4	1	0	3	49	6	56	28	0
家族・親族	64	9	55	10	10	7	1	4	20	12	18	45	1
健康・医療	29	12	17	6	6	1	1	2	9	4	20	7	2
経済	25	11	14	4	3	5	1	1	11	0	17	7	1
生き方	24	11	13	6	5	3	2	2	5	1	23	1	0
住居	16	3	13	6	5	1	0	0	2	2	13	3	0
人間関係	15	2	13	3	0	6	3	0	2	1	12	0	3
終末期	13	4	9	4	1	1	1	1	5	0	12	1	0
介護・福祉	11	0	11	1	5	0	0	2	2	1	5	6	0
成年後見	10	3	7	0	3	0	0	0	5	2	7	3	0
仕事	8	5	3	2	2	1	1	0	0	2	7	1	0
その他	6	2	4	3	0	0	2	0	0	1	4	0	2
年金・保険	4	2	2	2	0	0	0	0	2	0	3	1	0
消費生活	2	0	2	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0
	311	96	215	68	45	26	12	15	112	33	198	104	9
	%	30.9	69.1	21.9	14.5	8.4	3.9	4.8	36.0	10.6	63.7	33.4	2.9

全国一斉特設電話相談「シニアの悩み110番」

相談内容順位表 暮らしの形態別、誰についての相談か（過去5回実績順位）

（資料-2）

実施日：平成24年3月24日・25日

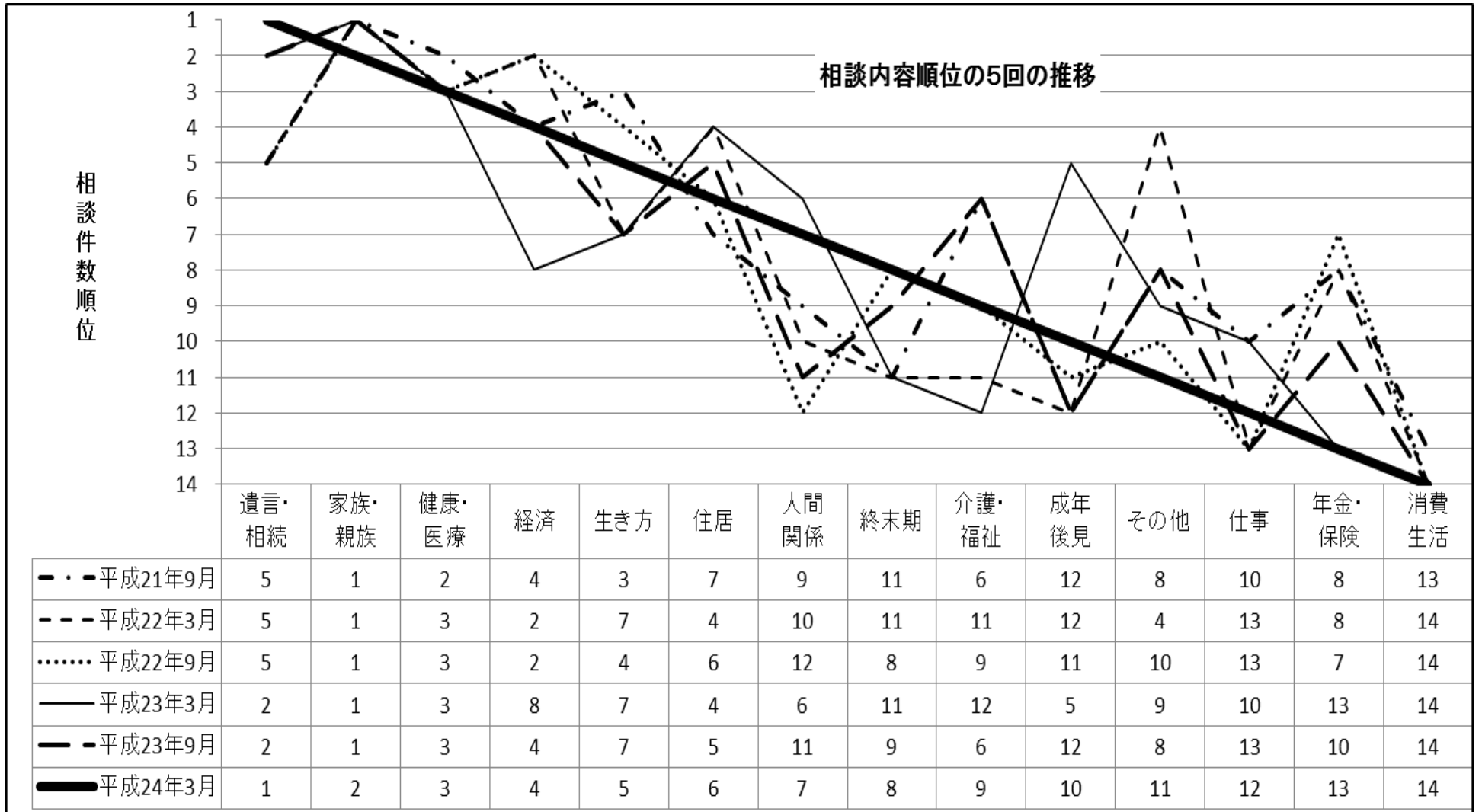
区分	合計		性別		暮らしの形態別			誰についての相談か			順位				
	順位	件数	男	女	夫婦世帯	一人世帯	家族同居世帯	本人	家族	友人等	23年9月	23年3月	22年9月	22年3月	21年9月
遺言・相続	1	84	32	52	32	29	23	56	28	0	2	2	5	5	5
家族・親族	2	64	9	55	22	15	27	18	45	1	1	1	1	1	
健康・医療	3	29	12	17	11	13	5	20	7	2	3	3	3	3	2
経済	4	25	11	14	4	11	10	17	7	1	4	8	2	2	4
生き方	5	24	11	13	4	16	4	23	1	0	7	7	4	7	3
住居	6	16	3	13	6	9	1	13	3	0	5	4	6	4	7
人間関係	7	15	2	13	5	6	4	12	0	3	11	6	12	10	9
終末期	8	13	4	9	4	8	1	12	1	0	9	11	8	11	11
介護・福祉	9	11	0	11	4	4	3	5	6	0	6	12	9	9	6
成年後見	10	10	4	6	4	4	2	7	3	0	12	5	11	12	12
その他	11	10	4	6	0	4	4	7	1	0	8	9	10	4	8
仕事	12	8	5	3	3	2	1	4	0	2	13	10	13	13	10
年金・保険	13	4	2	2	1	2	1	3	1	0	10	13	7	8	8
消費生活	14	2	0	2	0	0	2	1	1	0	14	14	14	14	13
合計		311	96	215	100	123	88	198	104	9					
		%	30.9	69.1	32.2	39.5	28.3	63.7	33.4	2.9					

全国一斉特設電話相談「シニアの悩み110番」

相談内容年度別順位推移表グラフ

(資料-3)

実施日：平成24年3月24日・25日



全国一斉特設電話相談「シニアの悩み110番」
相談内容順位別・年齢別集計表

(資料-4)

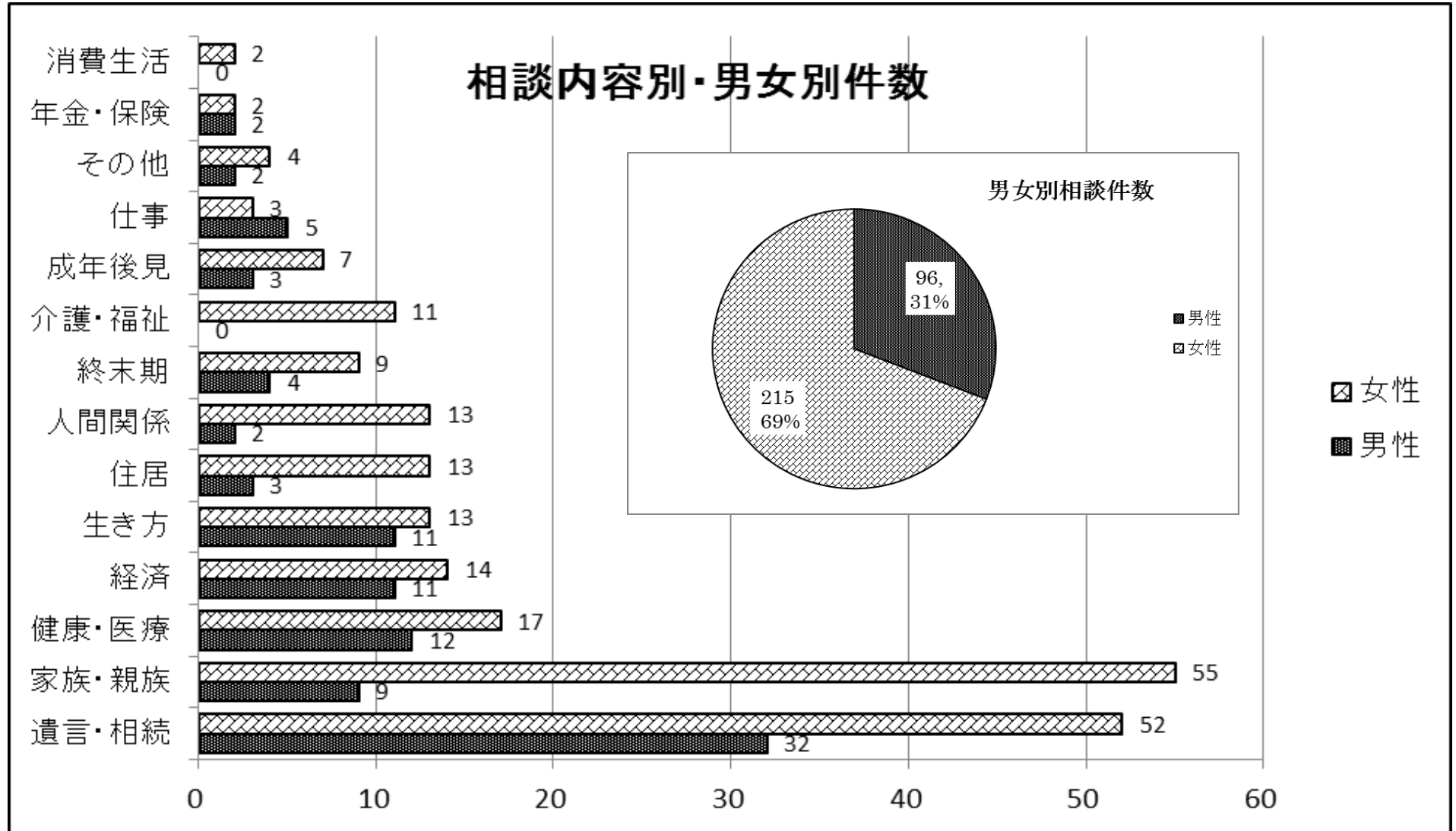
実施日：平成24年3月24日・25日

区分	件数	性別		年齢区分(歳)									誰についての相談か		
		男	女	45歳以下	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80歳以上	本人	家族	友人等
遺言・相続	84	32	52	0	0	4	3	8	12	27	11	19	56	28	0
家族・親族	64	9	55	2	1	1	2	14	16	9	11	8	18	45	1
健康・医療	29	12	17	0	0	3	0	3	6	10	4	3	20	7	2
経済	25	11	14	0	0	2	1	5	4	1	6	6	17	7	1
生き方	24	11	13	0	1	0	3	3	4	7	5	1	23	1	0
住居	16	3	13	0	0	0	0	2	2	3	6	3	13	3	0
人間関係	15	2	13	0	0	2	0	3	3	5	0	2	12	0	3
終末期	13	4	9	0	0	0	0	2	3	4	2	2	12	1	0
介護・福祉	11	0	11	0	0	0	0	2	1	4	1	3	5	6	0
成年後見	10	3	7	0	0	0	0	1	4	1	3	1	7	3	0
仕事	8	5	3	0	0	1	1	1	1	4	0	0	7	1	0
その他	6	2	4	0	1	1	0	0	1	2	1	0	4	0	2
年金・保険	4	2	2	0	0	0	0	1	0	1	2	0	3	1	0
消費生活	2	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0
合計	311	96	215	2	3	14	11	45	58	78	52	48	198	104	9
	%	30.9	69.1	0.6	1.0	4.5	3.5	14.5	18.6	25.1	16.7	15.4	63.7	33.4	2.9
		年齢別順位		9	8	6	7	5	2	1	3	4			

全国一斉特設電話相談「シニアの悩み110番」
相談内容別・男女別件数グラフ

(資料 - 5)

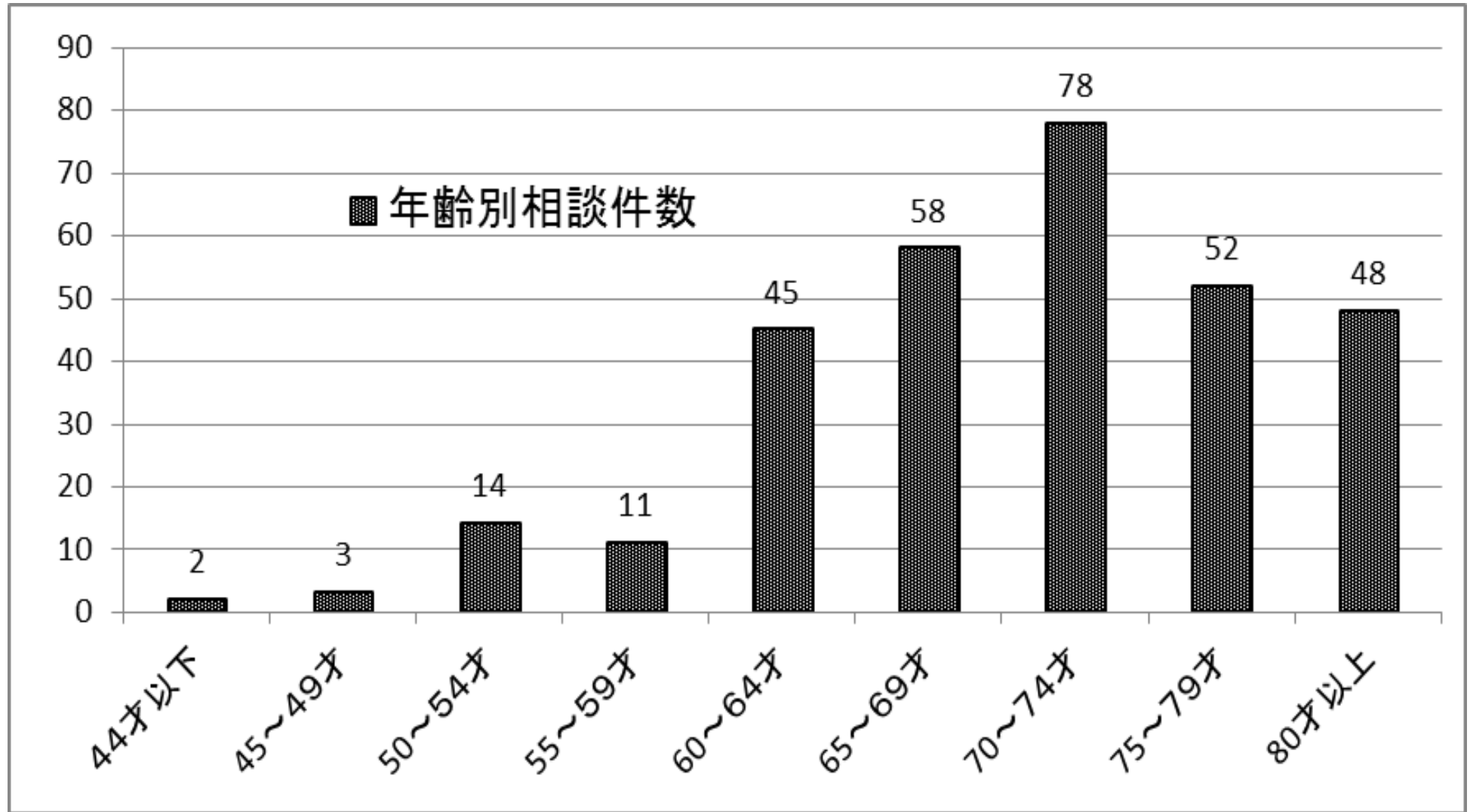
実施日：平成24年3月24日・25日



全国一斉特設電話相談「シニアの悩み110番」
年齢別相談件数グラフ

(資料 - 6)

実施日：平成24年3月24日・25日

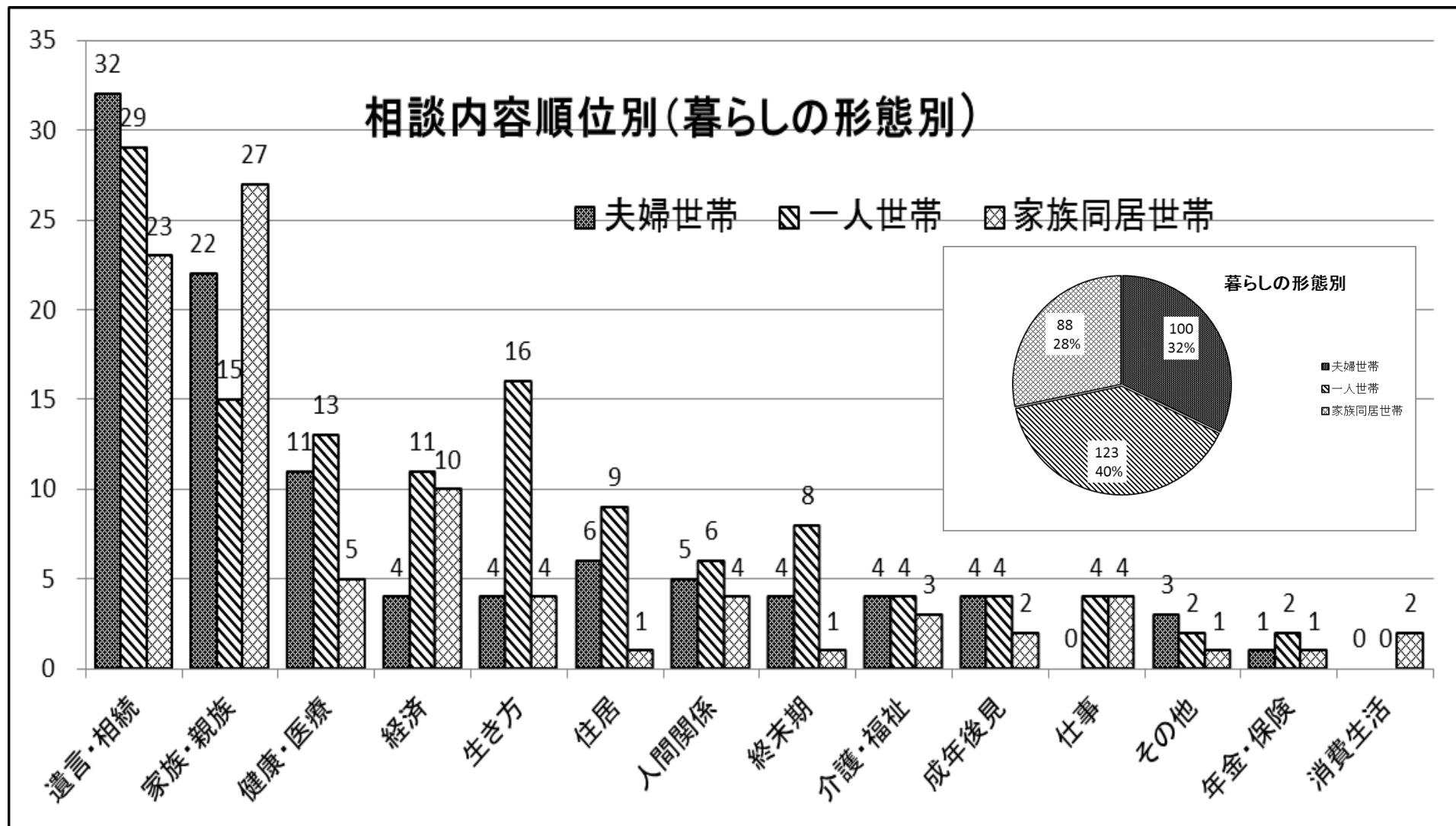


全国一斉特設電話相談「シニアの悩み110番」

相談内容順位別（暮らしの形態別）グラフ

（資料 - 7）

実施日：平成24年3月24日・25日



全国一斉特設電話相談「シニアの悩み110番」

協会別 暮らしの形態別件数・暮らしの形態別グラフ

(資料 - 8)

実施日：平成24年3月24日・25日

